

## 学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 高山工業高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和5年1月28日(土) 10:00~12:00
- 3 開催場所 高山工業高等学校 会議室  
開催にあたり、委員による卒業作品展の見学を実施した
- 4 参加者  
委員 桑原 博章 育友会会長  
熊崎 秀一 千島町町内会副会長  
中野谷 康司 高山市教育委員会 教育長(欠席)  
中田 和子 高山商工会議所 女性会会長  
下垣内たか子 高山市立日枝中学校校長  
多田 仁 高山市立花里小学校校長  
岡田 明子 飛騨木工連合会理事 (欠席)  
  
学校側 秋場 毅 校長  
田口 稔 教頭  
蒲 正明 事務長  
大坪 博孝 教務主任  
高橋 佑介 生徒指導主事  
谷口 精一 進路指導部員  
門前 雅人 工業部長

### 5 会議の概要(協議事項)

- (1) 1月以降の主な活動
- (2) 校則の見直し(髪型についての共通認識 生徒会提案)

意見1: 卒業作品展は、生徒が礼儀正しくて気持ち良かった。自分の製作したものについて自信をもって説明をされ、説明の仕方も一方的ではなく会話しながらできていた。このような姿を見ると生徒の頼もしさを感じる。またSDGsをどこのコーナーでも丁寧にまとめられ、しっかりと学習していることに感心した。これからも続けてほしい。

意見2: 数多くの地域貢献活動で工業高校にお世話になり感謝している。高校生と触れ合う中で地域の方が身近に感じている。様々な交流を大切にし、地域に根ざした学校を目指してほしい。

意見3: 多様な価値観が大事にされる中で校則を見直していくことは難しさがあるが、生徒会長を中心に校則の見直しをしっかりとしたプロセスで取り組んでいた。社会との接点を考え、根拠を示しながら生徒に説明をすることで説得力があった。良い取り組みである。

### (3) 学校評価・指導の重点と自己評価等

意見1：卒業作品展の作品ができるまでの過程が見られる工夫があるとよい。見学者に完成までの大変さが分かり、ものづくりの奥深さを伝えられる。

意見2：本校の地域貢献活動に小学校や中学校が参加することで、将来ものづくりやプログラミングに関わる仕事を目指す者が増加する。交流会等の行事を続け、地域に根ざした学校づくりをしてほしい。

意見3：オンライン授業は、対面授業に比べ、できないことや伝わらないことがあるため難しいが、学習補償という点では必要である。

意見4：社会人でも人間関係の問題がある。学生のうちからコミュニケーション能力を育てるとともに人間関係をうまく構築する力を育ててほしい。

意見5：少子化の影響で募集定員に満たなくても、入学した生徒を大事にして確実に力を付けさせ、生徒が辞めない学校づくりをしてほしい。

意見6：ICT化が進み、さらに専門性が高度になっている。子供たちの学ぶ意欲を止めずに、新しい技術を取り入れ、新しい事に挑戦してほしい。

## 6 会議のまとめ

- ・第3回学校運営協議会では、「生徒会提案による校則の見直しの取組」や「学校評価・指導の重点と自己評価」について委員から承認を得られた。
- ・来年度の地域貢献活動等については、委員の意見を踏まえ活動計画を検討したい。